

子どもが主役の運動会づくり



安武 一雄（大阪支部 山田第一小学校）

1 はじめに

同志会は長いけど、同志会実践という意識で「運動会」に取り組んできたわけではありません。理論的にも実践的にも適任者がたくさんおられる中で私にできることは、どんなことを考えながらこれまで運動会づくりにかかわってきたかを報告し、「子どもが主役の運動会」とはどういうものか、どこから手を付けていけばいいのかを、参加された皆さんと一緒に意見交流することかなと思っています。というのも、多くの現場で「運動会の主役は？」と聞くと「子ども」という返事が返ってくるのですが、その中身は「放送係の子がプログラムを紹介している」「応援団長が選手宣誓をしている」「児童会競技を子どもが運営している」等々、運動会当日を中心に子どもが運営に表面的に関わっているという場合が多いからです。それで本当に「子どもが主役」といえるのでしょうか？

しかし一方で、多忙化・スタンダード化の進む現場で、創造的に運動会を作っていくことの難しさが増しています。その中でも本当に「子どもが主役」の運動会をどこから作っていくのか考えていきましょう。

2 運動会は何のために？

①「運動会」の歴史から、その意義を探る

「運動会」の始まりは 1870 年代から 80 年代に求められますが、それまでの日本の教育に体育的基盤がなかったことから、海軍兵学校や大学・師範学校等で外国人講師らによって取り入れられたものようです。その頃のねらいは「体格や活気の気風を発達させるため」にあり、「陸上競技の記録会的性格」のものとして「レクリエーション大会的性格」のものがあつたようです。後者はその後、遊戯・娯楽の少なかった頃で、その面白さに触れた子どもや教師・親たちは、我が国の風土になじませていったようです。

その後、1930 年代の軍国主義化の中で「運動会」も「戦意高揚・鍛練的性格」が色濃くなり、1933 年には「国旗掲揚・降下」が開閉会式に位置づき、40 年には「宮城遙拝」も追加されます。また、1944 年には「国民学校」の「錬成上の注意点」として「体育大会は皇国の道義教育の絶好の機会である」とあります。

それが戦後の民主化の中で、運動会でも民主的な人格形成が求められ、児童・生徒の自主性をもとに計画立案や運営にも参加させ、「自治」の力を求められるようになりました。また一方で地域との連携も強まっています。

②その後の変質と現在の位置づけ一省略

③求める「運動会」とは一項目以外省略—

- ㊦丹下の求めた「運動会」
- ①「自治」に視点をあてた運動会（中西）
- ㊧「運動会指導における最悪のシナリオ」（神谷）

3 どんな「運動会」を創っていくか

①「ねらい」や「運営組織」からの
アプローチ

- ・日頃の練習してきたことをいっばい発揮する
 - ・仲間と協力し合い、楽しい運動会にする
-
- ・体育学習を中心とした学習の発表の場とする
 - ・総合的な学習の一環として、子どもたちが自ら主人公となっていけるような学習の場とする
 - ・学級集団を基礎とし、学年や他学年との共同によって全校集団としての交流や高まりを求める
 - ・家族や地域の人々の理解と協力を得ながら、連携の場としていく

学校によって大きく違う「ねらい」や「目標」。「例年通り」ということで、まともに検討されていないところも多いようです。運動会のことを提案する立場になったら、「どんな運動会を」を検討することを提案してきました。

それと合わせて、「職員」と「児童」それぞれの運営組織をはっきりさせることが大切だと思います。

②「競技」や「演技」をどう作るか
〈子どもとつくる演技・競技〉

- ㊦授業のリレーから運動会のリレーへ
(小4 川淵実践)

①「オドリーダー」が引っ張る「はねこ」

実践（小4）

- ㊧実行委員会形式で取り組んだ6年の
団体競技・団体演技の取り組み
〈全校競技をつくる〉

○6つの種目決定の基準

- ㊦「みこし騎馬戦」（職員で創作競技）
- ①「玉転がし+選抜リレー」から「子どもが走る距離を決める全校スウェーデンリレー」へ
- ㊧子どもと考えた「ペア学年対抗脱出ゲーム」

③実行委員会（児童会）をどう指導するか

○応援団や各係を束ねる「実行委員会」を

- 1) 「企画案」をつくり「今年の（自分たちの）運動会は、これだ！」というものをつくる
- 2) それを実行するために、応援団・各係・全校児童、さらには職員へ「発信」していく

3) 実行委員会が責任を持つところを明確にする（重点化と分担化をして）

- ・拡大実行委員会の運営
- ・開閉会式
- ・全校競技や全校ダンスの企画・運営
- ・全校練習での指揮
- ・雰囲気づくりや地域への働きかけ

※肝心なところが項目だけとなりました。当日補足します

〔参考文献〕

中村敏雄・出原泰明編「運動会を変える1」
1984年 民衆社
神谷拓「対話でつくる教科外の体育」
2017年 学事出版